

平林金属

# 非鉄仕分け用新設備

岡山・西大寺工場に導入 精度高め効率化

金属原料加工・販売の平林金属（岡山市北区下中野）は、非鉄金属の仕分けに用いる新設備を西大寺工場（同市東区西大寺新地）に導入した。形など3種類の選別機能があり、作業の精度アップと効率化につなげる。

西大寺工場は、自動車や家電などの破砕く



平林金属が西大寺工場に導入した非鉄金属選別の新設備

ずから非鉄金属をより分ける拠点。岡山県内3カ所にある裁断工場から運ばれた混在状態のミックスメタルを機械と手作業でアルミ、ステンレス、亜鉛、銅など約30種類に仕分け、再資源化を図っている。今回は4台ある選別機のうち1台を更新。

従来の色、素材に反応するセンサーに加え、形を読み取るカメラ機能も備えており、ハaines（組み電線）などこれまで難しかった素材の処理も可能にした。コンベヤーなど設備も大型化し、処理能力も従来機の倍に高まった。投資額は非公表。

小型家電リサイクル法の施行（2013年）を受け、携帯電話やデジタルカメラなど回収する品目や量が年々拡大。現在の西大寺工場の処理量は開設時（07年）の倍にあたる年間約2千トまで伸びており、フル操業となっていた。

本城寛工場長は「金属だけでなく樹脂との複合素材も増え、分別

の工程が煩雑になってく」と話している。回収プログラムも工夫し、より効率的な運用を目指している。平林金属は1960年設立、資本金9980万円、売上高約170万円、従業員約330人（パート含む）。3億円（17年12月期、従業員約330人（パート含む））。

（太田知二）